

老いてなお走り続ける夫婦駒

寺畠 俊子

はかどらぬ断捨離猛暑のせいにして

竹本 夕エ子

五十年今なら言えるあの言葉

田中 たづ子

守られて長寿社会を闊歩する

寺畠 末雄

大あくびかくすマスクの休み明け

蓑島 啓子

みのしま けいこ

おいてなおはしりつづけるみょうとこま

てらはた としこ

はかどらぬだんしやりもうしょのせいにして

たけもと たえこ

ごじゅうねんいまならいえるあのことば

たなか たづこ

まもられてちようじゅしゃかいをかっぽする

てらはた すえお

おおあくびかくすますくのやすみあけ

爽やかや寛解ですと告げられて

さわやかやかんかいですとつげられて

田中 孝利

たなか たかとし

旧仮名の母の手紙や虫しぐれ

きゅうかなのははのてがみやむししぐれ

林 保江

はやし やすえ

月光や癌病む友と長電話

げつこうやがんやむともとながでんわ

林 美津江

はやし みつえ

橋伝ひ向こう岸迄葛の花

はしつたいむこうぎしまでくずのはな

山本 隆子

やまもと たかこ

油照蔭から蔭へ瘦せた猫

あぶらでりかげからかげへやせたねこ

馬場 精作

ばば せいさく

手鏡に吾が名を入れし能登の塗師
いかに在わすと曇りを拭う

河野 美津子

涙ふき心の修理しています
つぎ布当てなおれば笑顔に

山口 正子

誕生日その日の話を母に聞く
生まれた喜び夏空の青

賤間 星

三十で父となる甥朝まだき
ミルクを作る妻を手伝う

河野 敬子

見いつけた桃の葉隠れそこかしこ
一番取りにかぶりつく孫

矢田 悅子

てかがみにわがなを入れしのとのぬし
いかにあわすとくもりをぬぐう
なみだふきこころのしゆうりしています
つぎぬのあてなおればえがおに
たんじょうびそのひのはなしをははにきく
うまれたよろこびなつぞらのあお
やまぐち まさこ
かわの みつこ

さんじゅうでちちとなるおひあさまだき
みるくをつくるつまをてつだう
ぎいま せい
かわの としこ

みいつけたものはがくれそこかしこ
いちばんどりにかぶりつくまご

やた えつこ

笑顔が美味しいおばあちゃんの食堂

岡村 裕司

えがおがおいしいおばあちゃんのしょくどう
おかむら ひろし

亡き母の帽子を被り盆参り

賤間 由美子

なきははのぼうしをかぶりぼんまいり

ポツポツと灯り消えて山の静か

ざいま ゆみこ

ぽつぽつとあかりきえてやまのしづか

松下 満江

まつした みつえ

まだ叶えたい夢がある

まだかなえたいゆめがある

星井 香筍

ほしい こうじゅん

どうでもいいさ人の事などうろこ雲

どうでもいいさひとのことなどうろこくも

佐川 智英実

さがわ ちえみ